

## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月14日

上場会社名 アジア開発キャピタル株式会社  
 コード番号 9318 URL <http://www.asiadevelop.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 網屋 信介  
 問合せ先責任者 (役職名) 企画管理部 (氏名) 天神 雄一郎  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-5534-9614

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	530	△26.1	△325	—	△381	—	△562	—
2019年3月期第2四半期	718	318.2	△434	—	△314	—	△340	—

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △507百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 △320百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△1.19	—
2019年3月期第2四半期	△0.72	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	2,482	2,099	84.6	4.44
2019年3月期	3,310	2,698	78.8	5.52

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 2,099百万円 2019年3月期 2,608百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	—	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	1,359	△16.6	△198	—	△218	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想につきましては、添付資料2ページ～3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	472,435,456 株	2019年3月期	472,435,456 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	15,909 株	2019年3月期	15,909 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	472,419,547 株	2019年3月期2Q	472,419,547 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9
4. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善によって、緩やかな回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦問題をはじめとする海外政治・経済情勢の不確実性等による影響が懸念されるなど、先行きについては不透明な状況となっております。

このような経営環境の下で、当社グループは、収益事業の確立によって財務体質を改善すべく、新規投資案件の探索や既存投資先の業績改善に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は530百万円（前年同期比26.1%減）となりました。営業費用につきましては、本社部門における経費削減等はありませんでしたが、営業損失が325百万円（前年同期は434百万円の営業損失）、経常損失は381百万円（前年同期は314百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は562百万円（前年同期は340百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ828百万円（25.0%減）減少し、2,482百万円となりました。

主な増減は、営業貸付金の増加351百万円、また、受取手形及び売掛金の減少288百万円、有価証券の減少289百万円、投資有価証券の減少277百万円、有形固定資産の減少197百万円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ229百万円（37.5%減）減少し、382百万円となりました。

主な増減は、短期借入金の減少213百万円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ599百万円（22.2%減）減少し、2,099百万円となりました。

主な増減は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少562百万円、新株予約権の減少89百万円、また、その他有価証券評価差額金の増加80百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績の動向を踏まえ、2019年8月14日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期連結業績予想を修正いたします。

1. 2020年3月期通期連結業績予想数値（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益
前回発表予想（A）	1,380	△190	△210
今回発表予想（B）	1,359	△198	△218
増減額（B－A）	△21	△8	△8
増減率（％）	△1.5	－	－
（参考）前期連結実績 （2019年3月期）	1,630	△843	△847

2. 業績予想修正の背景および内容

業績予想修正の背景および内容は下記の通りです。

① 質金融事業および中古品売買事業

子会社・株式会社トレードセブンの予想数値は、前回から変更はなく、売上高663百万円、営業利益90百万円、経常利益90百万円としております。

② ジャパン・フード・タウン事業

中国子会社・臻萃本物（福建）餐飲管理有限公司（以下、「臻萃本物」といいます。）による中国福建省福州市における日本食総合レストラン街「臻萃本物ジャパン・フード・タウン」は、2019年9月27日付適時開示資料「子会社の事業縮小および特別損失の計上に関するお知らせ」にてお知らせした通り、出店テナント9店舗のうち、業績改善の目途が立たない3店舗を2019年9月末で閉店し、事業を縮小しております。また、営業を継続す

る6店舗につきましても、一部テナントの入れ替え等の業績改善策を実施しておりますが、当初の想定を下回る業績となる見込みであります。

その結果、臻萃本物の予想数値は、売上高162百万円(前回183百万円)、営業利益△58百万円(前回△50百万円)、経常利益△58百万円(前回△50百万円)としております。

③ バイオマス燃料供給事業

マレーシア子会社・Cleath Energy Malaysia Sdn. Bhd.およびCleath Biomass Energy Sdn. Bhd.の予想数値は、前回から変更はなく、売上高438百万円、営業利益44百万円、経常利益44百万円としております。

④ その他

当社個別の予想数値は、前回から変更はなく、売上高96百万円、営業利益△274百万円、経常利益△294百万円としております。

以上の結果、当社連結の予想数値は、連結売上高1,359百万円(前回1,380百万円)、連結営業利益△198百万円(前回△190百万円)、連結経常利益△218百万円(前回△210百万円)としております。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	232,912	276,603
受取手形及び売掛金	331,578	42,671
有価証券	413,980	124,459
商品	41,279	57,418
営業貸付金	700,525	1,052,453
その他	196,434	100,512
貸倒引当金	△129	△3,369
流動資産合計	1,916,580	1,650,749
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	342,639	161,611
工具、器具及び備品(純額)	24,032	9,491
機械装置及び運搬具(純額)	31,879	29,530
有形固定資産合計	398,551	200,632
無形固定資産		
のれん	17,106	12,169
ソフトウェア	24,840	21,349
その他	1,149	1,040
無形固定資産合計	43,097	34,559
投資その他の資産		
投資有価証券	286,767	9,336
関係会社株式	591,339	531,894
破産更生債権等	137,862	137,862
差入保証金	47,238	35,962
その他	26,770	18,973
貸倒引当金	△137,862	△137,862
投資その他の資産合計	952,115	596,167
固定資産合計	1,393,764	831,359
資産合計	3,310,344	2,482,109

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,368	18,034
短期借入金	489,686	276,660
未払金	35,241	29,673
未払法人税等	2,754	12,001
資産除去債務	3,300	—
その他	24,524	20,399
流動負債合計	577,876	356,769
固定負債		
退職給付に係る負債	11,002	11,730
長期未払金	22,872	14,069
固定負債合計	33,875	25,800
負債合計	611,751	382,569
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,325,783	4,325,783
資本剰余金	751,905	751,905
利益剰余金	△2,392,483	△2,956,898
自己株式	△5,954	△5,954
株主資本合計	2,679,251	2,114,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△80,717	—
為替換算調整勘定	10,358	△15,297
その他の包括利益累計額合計	△70,358	△15,297
新株予約権	89,700	—
純資産合計	2,698,593	2,099,539
負債純資産合計	3,310,344	2,482,109

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	718,726	530,965
売上原価	664,947	426,733
売上総利益	53,778	104,231
販売費及び一般管理費	※ 488,519	※ 429,400
営業損失(△)	△434,740	△325,169
営業外収益		
受取利息及び配当金	231	283
為替差益	—	11,857
持分法による投資利益	138,034	—
その他	1,712	2,220
営業外収益合計	139,977	14,360
営業外費用		
支払利息	15,209	13,722
為替差損	3,795	—
持分法による投資損失	—	56,821
その他	420	332
営業外費用合計	19,425	70,876
経常損失(△)	△314,187	△381,684
特別利益		
固定資産売却益	—	114
新株予約権戻入益	—	89,700
特別利益合計	—	89,814
特別損失		
投資有価証券評価損	13,930	—
固定資産売却損	136	—
違約金損失	11,033	—
投資有価証券売却損	—	109,937
減損損失	—	10,351
固定資産除却損	—	148,967
特別損失合計	25,099	269,256
税金等調整前四半期純損失(△)	△339,287	△561,127
法人税、住民税及び事業税	1,144	1,484
法人税等合計	1,144	1,484
四半期純損失(△)	△340,431	△562,611
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△130	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△340,300	△562,611



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△340,431	△562,611
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,186	80,717
為替換算調整勘定	△30,672	△25,656
その他の包括利益合計	19,514	55,060
四半期包括利益	△320,917	△507,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△320,786	△507,550
非支配株主に係る四半期包括利益	△130	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで13期連続して経常損失を計上しており、また、当第2四半期連結累計期間においても325,169千円の営業損失を計上しております。このため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該重要事象等を解消し、または改善するため、以下の対応策を講じてまいります。

## ① 優良な投資案件の選定と実行

当社は、日本およびアジアを中心とする地域における経済的・社会的貢献を標榜し、投資事業を柱とした事業創造を行ってまいりました。今後も、これまで培ってきた中国ビジネスパートナーの知識・経験・人脈を活用して、日本、中国のみならず、アジア諸国において、当社グループに経常的な利益、キャッシュ・フローをもたらす優良な投資案件を選定し、積極的な投資を行うことにより、当社グループの収益基盤の安定化、財務体質の強化を図ってまいります。

現在、当社グループは、Cleath Biomass Energy Sdn. Bhd.を通じて、マレーシアにおいてバイオマス燃料PKS（パーム椰子種子殻）供給事業を行っております。

また、中国福建省に、2018年1月に臻萃本物（福建）餐飲管理有限公司を設立し、中国における日本食レストラン事業を行っておりますが、出店テナント9店舗のうち業績改善の目途が立たない3店舗を2019年9月末で閉店し、事業を縮小しております。営業を継続する6店舗につきましても、今後の業績を見極めたうえで、2019年12月末までに、事業の存続または完全撤退を判断することといたします。

## ② 財政状態の改善

当社は、運転資金を確保した上で、新たな中核事業への投融資、および投資先の事業展開を遂行するため、株式、新株予約権による直接調達、金融機関等からの借入による間接調達等、各種の資金調達の可能性を検討し、財政状態の健全化を図ってまいります。

## ③ 子会社および関連会社の収益力の強化

株式会社トレードセブンは、質屋業・古物買取販売業を当社グループの収益源へと育成すべく、役員・従業員派遣および資金提供を通じて業容拡大を目指してまいります。

Cleath Biomass Energy Sdn. Bhd. は、バイオマス燃料PKS（パーム椰子種子殻）の供給事業を進めてまいります。

臻萃本物（福建）餐飲管理有限公司は、中国・大洋百貨福州店における日本食レストラン事業「HonMono」を行っておりますが、上記の通り、事業継続の妥当性を検証しております。

## ④ 経費削減

当社グループは、収益基盤の改善を進めるために、組織体制の見直しを行い、事業活動の効率化を図るとともに、人件費等を含む経費の削減に取り組み、事業運営コスト削減を徹底して行い、更なる収益力の強化に努めております。今後もこの方針を継続していく所存です。

しかしながら、上記の子会社運営と事業投資が当社の意図する通りの成果をもたらすかどうかは不明確であるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、投資事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

#### 4. その他

##### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで13期連続して経常損失を計上しており、また、当第2四半期連結累計期間においても325,169千円の営業損失を計上しております。このため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該重要事象等を解消し、または改善するための対応策等につきまして、「四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しておりますが、その対応策については実施途上であり、今後の事業環境や経済情勢によっては意図した効果が得られない可能性もあるため、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。